

私立大学研究ブランディング事業 平成30年度の進捗状況

学校法人番号	131045	学校法人名	学校法人大東文化学園		
大学名	大東文化大学				
事業名	漢学・書道の学際的研究拠点の形成による「東洋人の"道"」研究教育の推進				
申請タイプ	タイプB	支援期間	2018	年度～	2020 年度
参画組織	文学部、経営学部、スポーツ・健康科学部、文学研究科、東洋研究所、書道研究所、大東文化歴史資料館、図書館、国際交流センター				
事業概要	現代社会が直面する人文主義の諸問題に、東洋の"道"と"書"の思想と芸術の立場から提言を試みる。建学以来、「漢学・書道の大東」として培ってきた東洋人の知的資源(漢籍・書跡)を基盤とするデジタル・アーカイブスを整備・構築し、東洋人の"道"の学際的研究拠点としてのイノベーション研究を行い、全学的研究機構を設置して国内外に向けて発信することにより、「東洋人の"道"を育てる大学」というブランド確立を目指す。				
①事業目的	本事業は、大東文化大学(以下、本学)の最も大きな特色の一つである「漢学・書道」を中心に展開する。その目的は、建学以来継承されてきた「漢学・書道」に関する知的資源を基盤とするデジタル・アーカイブスを整備・構築し、これを学際的に発展させ、東洋人の思想、すなわち「東洋人の"道"〈ヒューマニティー〉」思想に係る世界的なイノベーション研究拠点となることにある。研究成果を国内外に発信し、教育へと還元することで、本学の建学の精神に謳う「儒教に基づく道義」に根差した「東洋人の"道"を育てる大東文化大学」というブランドイメージの定着を目指す。				
②平成30年度の実施目標及び実施計画	<p>【研究実施計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■漢籍・書跡・自校史等の知的資源の総点検 ■未完成の漢籍(「麓保孝旧蔵書」等)目録と写真(図版)作成 ■書道学科の創設20周年及び書道研究所の創設50周年に向けた記念所蔵品展の準備及び記念図録の刊行準備 ■本学草創期の教員(20～30名)の活動や業績等の調査・研究 ■儒家・道家を中心とした"道"に関する資料収集と研究 ■漢籍を中心とした東洋学研究資料の訳注などの刊行 ■拓本コレクションのデータベース化に向けた総点検 ■経営と"道"に関する資料収集と研究 ■"書"の科学的実験データの収集と研究 <p>【ブランディング実施計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■プレスリリースの定期配信、ニューズレターの発行、学内の電子掲示板等を利用した情宣活動の実施、オープンキャンパス・高校訪問での本事業の周知、全国保護者会(青桐会)での本事業の周知、公開講座での広報 ■①研究ブランディング特設WEBサイト(以下特設サイト)を開設し、特に貴重な漢籍・書跡のデジタル化を先駆けて実施し、公開②併せて大学新聞に掲載(進捗状況等の連載企画の開始)③在学生に向けて漢学と書道、自校史などの"道"と"書"の関連科目を「推奨科目」として指定する(「Daito BASIS」)④書道を通じた国際交流資源の検討 <p>【研究実施計画達成基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇知的資源の研究基盤整備のための総点検 70%以上完了 ◇書道学科・書道研究所の周年事業実施準備 60%以上完了 <p>【ブランディング実施計画達成基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇「3. ブランディング戦略 IV.工程ごとの成果指標と達成目標・進捗把握」に記載のステークホルダー(第1群～第4群)の成果指標を基準とする(以下、毎年実施) ◇特設サイトの開設及び漢籍・書跡のデジタル化の一部公開の実施 ◇大学新聞の連載開始 ◇在学生に「Daito BASIS」を履修推奨科目として指定した旨の周知・広報の実施 ◇書道を通じた交流資源の検討の実施 				

<p>③平成30年度の事業成果</p>	<p>【研究事業成果】</p> <p>①書道学科の創設20周年及び書道研究所の創設50周年に向けて、本学教員の書作品を、本学所蔵および成田山書道美術館所蔵品から選定し、目録などを作成することができた。</p> <p>②「経営学」と「道」に関するテーマについて、官と民の立場から講演会を実施し、研究の基盤となる知見を得ることができた。</p> <p>・「くらしと経営を支える税」(国税庁板橋税務署長)・「消費税に係る財政と社会保障」(税理士)</p> <p>③書道動作を光学式モーションキャプチャシステム、そして生理学的応答を携帯型心拍系により測定し、書道動作と生理学的応答の関係を明らかにすることができた。</p> <p>【ブランディング】</p> <p>①プレスリリースの定期配信、ニュースレターの発行、保護者会やオープンキャンパスでの周知などを通して多くのステークホルダーに認識してもらうための取り組みを行ってきた。</p> <p>②研究ブランディング特設WEBサイト(以下特設サイト)を開設した。 https://www.daito.ac.jp/branding/</p> <p>③大学新聞に係る記事を掲載した。</p> <p>④在学生に向けて漢学と書道、自校史などの"道"と"書"の関連科目(「Daito BASIS」)を2019年度入学生を対象に「推奨科目」として指定した。</p> <p>⑤書道を通じた国際交流事業として、国立台湾藝術大学(台湾)とワークショップおよび協働事業等について基本合意を得ることができた。</p>
<p>④平成30年度の自己点検・評価及び外部評価の結果</p>	<p>(自己点検・評価)</p> <p>平成30年度はそのほとんどを準備段階に費やしたため、研究事業についての具体的な成果が限定的なものになった一方で、ブランディング事業に関しては、事業概要全体の周知を積極的に行うことができたものと考えられる。</p> <p>(外部評価)</p> <p>所蔵している書跡や漢籍などの知的資源が多いことから、知的資源の精査とデジタルアーカイブ化には一定の時間がかかることについては十分理解できる。本事業の基盤となるデジタルアーカイブ化事業の次年度以降のすみやかな遂行と、単にそれにとどまらない多文化共生に向けての学際的研究拠点形成に期待したい。また、本事業の周知に関しては、高校教員(書道)間でも話題になり始めるなど、発信の効果を感じる側面もあることから、より一層積極的に発信されるよう求めたい。</p>
<p>⑤平成30年度の補助金の使用状況</p>	<p>平成30年度の事業経費として、大東文化大学百年史編纂サイトの更新費用、本事業を展開するためのサイトを初期構築するための費用を主に執行した。</p>